

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
108	川崎市立真福寺小学校	鈴木 みどり

学校教育目標	今年度の重点目標
真:真剣に進んで学習する子 福:みんなの幸福を願いなかよく助け合う子 心:心身ともに丈夫で実践力のある子	・主体的に学習に取り組む児童の育成 ・多様な他者を尊重し、大切に児童の育成 ・自らの心と体を大切に児童の育成

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	○学習指導要領を意識した授業改善 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 ・教科としての道徳、外国語の実践 ・プログラミング教育の実施 ・校内研究(国語科)を中心に、主体的に学び、友達と関わり合う子どもの姿を目指した授業実践 ・センターや研究会、他校の公開授業への積極的な参加	【成果】 ・学校全体で互いに授業を見合い助言することで、授業改善を推進することができた。 ・言語活動や観察・実験、問題解決的な学習を意識しながら、授業実践を進めることができた。 ・場面に応じて、それぞれの考えや思いを伝え合ったり、聴き合ったりすることで、思考力や判断力を深めていくことができた。 ・今年度、「国語科」について校内研究に取り組んだ。全クラス授業を公開し、講師を招いて、話を伺ったことで、教科の本質や大切なこと、進め方などについて学ぶことができ、教職員の意識や取り組む姿に良い変化が見られた。 ・GIGAスクール構想に関する多くの研修会を実施し、教員が知識・技能を身に付けることができた。 【課題】 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善については、今後も実践を積み重ねていく必要がある。 ・学習指導要領における評価、評定についてまだ理解が不十分なところがあった。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めるために、各単元、領域の中で、いつ、どの場面で、どのような形で言語活動や課題解決的な学習、個別学習、協働的な学び等を取り入れていくかを考え、計画的に取り組んでいく。 ・各教科の評価計画「いつ、どんな方法で、どんな様子や姿を見とっていくか」等について共通理解できるように研修を行い、実際の授業で実践を積み重ねていく。指導と評価が一体化するように授業改善していく。 ・センターや各研究会の研修や公開授業に積極的に参加するよう声掛けをして、研鑽を積む機会を保障する。
2 思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力・言語能力の育成	○GIGAスクール構想の推進 ・GSLのセンター等の研修会への積極的な参加 ・校内での研修会の実施		
3 基礎的・基本的な知識及び技能の習得と活用			
4 違いを個性として認め、受け入れ、個に応じた関わりができるやさしく、あたたかい学校・学級・子どもづくり「共生・協働」	○挨拶の励行 ○特別活動等を中心とした学級づくり ・実行委員会を中心とした運動会の計画と運営 ・学年実行委員会の企画と運営 ・委員会活動やクラブ活動への主体的な取組 ○人権尊重教育を重点に据えた学級経営 ・児童の実態を把握するために、効果測定、学校生活アンケートの実施と分析、活用 ・支援教育COを中心とした校内委員会の実施 ・職員会議や打ち合わせ等で児童理解について情報交換 ・取り出しや入り込み支援の充実 ・特別支援級と通常級の日常的な交流	【成果】 ・特別活動等を中心とした学級づくりをし、友だちの考えや意見を聞き、自分の考えを深めたり、広げたりする場面が増えた。 ・児童と共に考え、工夫しながら、委員会活動やクラブ活動を進めることができた。 ・児童の様子について、学校全体で情報を共有したり、支援教育COとの連携を図ったりしながら、児童指導・児童理解を進めることができた。 ・全教職員で、人権尊重教育を基盤とした指導に心がけ、共通理解をしながら、児童のよりよい人間関係づくりに努めた。また、日頃から、いじめが起らない、許さない学校、学級の風土づくりのために、川崎市子どもの権利に関する週間やいじめ防止月間等を活用しながら指導にあたることができた。 【課題】	・様々な教育活動を通して、自己肯定感や自己有用感を高めていく必要がある。「自分にはこんなところがある」「自分は大切な一人なんだ」と感じられ、自分自身に自信がもてるように見守り、褒め、育てていくという意識をもって指導にあたるよう職員に話をしていく。 ・いじめの防止については、引き続き、未然防止に努めていく。ちょっとした「からかい」や「いじり」が相手を傷つけ、辛い思いをさせてしまうということを理解し、「いじめは絶対に許されない」という意識がもてるよう、様々な場面で指導を継続していく。 ・教職員の指導が児童を傷つけたり、差別を生むきっかけにならないよう、教育活動を定期的に振り返る機会を設定していく。
5 自尊感情の高まりを大切にして自分をつくることのできる力の定着「自主・自立」	○いじめ防止基本方針に則ったいじめの未然防止と早期発見、早期対応の実施		

6	いじめが起こらない、許さない学校・学年・学級の風土作り	○教科、領域を通じた「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育の具体的な取組 ・キャリアパスポートの有効的、効果的な活用 ・市政100周年記念事業「学校e～ねサミット」の「川崎市を知って、関わって、好きになる」活動の推進	・一人一人の自尊感情や自己肯定感を高めていくことが難しかった。 ・いじめが起こらない、許さない学校、学級風土づくりに努めているが、どうしても友だちに意地悪をしたり、不快な思いをさせてしまったりする事案が発生してしまった ・今後も、教職員自身が常に人権感覚を磨いていけるよう努力していく必要がある。	
7	元気な心、丈夫な体の育成	・食育の推進 ・「かわさき共生※教育プログラム」の推進 ・「キラキラタイム」の推進	【成果】 ・休み時間等に、友だちと関わりながら進んで外遊びをしている子どもが多い。 ・給食時間に、好き嫌いをせず食べようとしている子どもが多い。 【課題】 ・ゲームのために、寝不足になったり昼夜逆転したりしている児童が数名いる。	・「キラキラタイム」を充実を図る。 ・「SOSの出し方・受け止め方教育」の充実を図る。 ・担任・学年教諭・支援教育COを中心に家庭へ支援をしていく。 ・児童相談所や地域見守り支援センター等とも連携し、家庭へ支援をしていく。
8	積極的な情報公開や発信、受信を通し、信頼関係の確立	・家庭や地域と積極的な連携 ・幼保小連携教育と小中連携教育の推進 ・学校運営協議会の実施(年3回) ・地域教育会議への積極的なかかわり ・学年、学校便り、メール配信、HP等による積極的な情報配信	【成果】 ・3回の学校運営協議会を通して、委員の皆様には、学校経営や指導体制、取組、子どもたちの様子などを理解していただくことができた。 ・幼保小連携教育と小中連携教育を通して、児童理解や情報共有ができた。 ・学年、学校便り、メール配信、HP等を通じて、学校の様子や子どもたちの様子を伝えることができた。 ・生活科や総合的な学習の講師として、地域の方にたくさん教えて頂く機会がもてた。 【課題】 ・「学校教育推進会議」を発展的に移行した「学校運営協議会」が「子どもの応援団」となれるように、どのように推進していくか。	・学校運営協議会で、具体的にどのような活動ができるか等、委員さんと相談しながら活動を進めていく。 ・幼保小連携教育と小中連携教育の推進していく。 ・学校の教育活動に協力的な保護者・地域である。そのことに感謝をし、今後も良好な関係が維持できるように努力していく。
9	学校と保護者、地域とが共に手を携えて、子どもを育てるという姿勢の共有 「コミュニティースクール」	・地域教育力・地域素材の有効活用 ・地域行事においての交流・連携		

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>○学校運営協議会では、子どもたちの発表を聞いていただいたり、授業参観をしたり、意見交流をしたりした。 (授業参観の感想) ・子どもたちが一生懸命に取り組む姿に感心した。・子どもたちがGIGA端末を上手に活用していて、素晴らしかった。・話し合いながら学んでいた。・掲示物が工夫されていた。・1年生は算数で具体物を操作しながら、学んでいた。理解が深まると感じた。 (意見交流) ・今年度から学校運営協議会が設置されたが、「子どもの応援団」として「学校」「家庭」「地域」がともに課題の解決を目指して動くことができなかった。4月に第1回目の学校運営協議会を開催し、学校運営方針を承認するとともに、取り組む課題を確認し、それぞれの立場での取組を考え、実施していけるようにしたい。等のご意見をいただいた。</p>	<p>・通常の教育活動に戻った1年だった。保護者、地域にもご理解、ご協力をいただきながら教育活動を進めることができた。また教職員も、授業改善や児童指導・児童理解、保護者対応等に、一生懸命に取り組んだ。そのおかげで、様々な課題を何とか乗り越えることができた。意識の高い職員集団なので、今後も、みんなで情報共有しながら、「チーム真福寺」として、努力していく。 ・校内研究を推進し、学校全体で互いに授業を見合い助言することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を続けていく。 ・教員として、社会人としての意識を高め、実践力を身につけ、次代を担う人材を育てていく。 ・さらなる、GIGAスクール構想の推進を図っていく。 ・支援が必要な児童の増加に対して人的なことも含めて指導が追いつかない状況があるが、引き続き関係諸機関と連携して対応していきたい。</p>